経営一転語 101　将来のビジョンを描く

常に、私は、「将来のビジョンを描くことが大切だ」と言っていますが、その大切さについて再度、確認しておきたいと思います。

社員がどうのこうのというよりも、まず、社長が将来の会社のビジョンを描くことが必要です。

そのビジョンは、漠然としたものでは、なかなかその実現は難しいと言えます。

白いキャンバスに絵を描いていくように、ありありと具体的に描くことが必要です。

それを具体的に文章に、数字に落とし込んだものが、経営計画書です。

ビジョンを描くときに求められるのは、ブレイクスルー思考（現状打破思考）です。

現状や過去にとらわれることなく、原点回帰し、「そもそも我々の事業の目的は何か。使命とはなにか。」を自分自身に問いかけ、どうあるべきかを考え抜き、定義しなければなりません。

劇的な環境変化の中で「我々の進むべき方向はこちらである」と方向を明示しなくてはいけないのです。

そういう意味で、社長は変革型のリーダーであるべきでしょう。変革型のリーダーは他を巻き込むような魅力のある人でなくてはいけません。

ビジョンの力で人を巻き込み、参画させていく触媒でなくてはいけないのです。

社長は勇気を持ち、人を信じ、感情ではなく価値観で動き、複雑さ、曖昧さ、不確実性に対処する能力を持ち、ビジョンを描き続けることが必要です。